

憲法に強い関心 映画「日本の青空」に 1,150 人

劇映画「日本の青空」をみるあきる野の会が、6月2日、秋川キララホールで、映画「日本の青空」の上映会（あきる野市教育委員会後援）を行い、昼の部は満席の700名、夜の部は450名、合計1,150名が鑑賞しました。代表の瀬沼辰正さんが「60年前に憲法にこめた思いを確実に実らせ、世界中の人々と平和に生きていくことを願わずにいられません」と挨拶。脚本の池田太郎さんは舞台挨拶で執筆に当たったの苦労話とともに「憲法問題では新たな事実に基づいて原作小説を書いている」と話しました。アンケートには178名が応じ、感想も寄せられました。会に結集する16の団体と個人が力いっぱい奮闘しましたが、憲法に強い関心を寄せる方が多く予想を超える反響でした。6月9日の実行委員会では、昨年



の製作協力会を経て、準備会から上映までの活動を振り返り、ご協力いただいたすべての団体・個人に対して感謝の意を表明しました。また、会計報告を承認するとともに、平和のための運動での協力を約束しあいながら、会の解散を決定しました。なお、会の資料管理や今後の対応はあきる野9条の会事務局が引き継ぐこととなりました。



寄せられた感想

✍️ 今までに憲法というものを真剣に考えたことがなかったもので、今日の映画を見て九条を守るべきだといえると思います。ありがとうございます。もっと私たちの年代がこの映画を見ないと次に継承できないと思います。（40歳代、男）

✍️ もっと若い人達に観る機会を与えられたらと思います。シナリオがよかった。（50代、女）

✍️ 憲法についてまたひとつ勉強になりました。人事でなくすぐ自分のそばにある憲法9条を守ることの大切さを痛感しました。4歳、6歳の息子たち、その子どもたちに兵隊さんに連れて行かれるような時代を2度と繰り返さない、繰り返してはいけないと強く願います。（30代、女）



✍️ 空白の軍事条項に当時の人々の戦争を二度としないという強い気持ちがとてもよく現れていたと思う。いい勉強になりました。（50代、男）

✍️ ご近所の方々数人とお会いしてニッコリ喋った。あの人も、この人も黙っていたけど本心は憲法九条を守る会に賛成していたのだった。ますます勇気が出てきた。（70代、女）

✍️ 日本にこんな素晴らしい人がいるんだと感動しました。第9条は決して変えてはいけないと強く思いました。この運動に参加していきたいです。（20代、女）

とんでもない！ 自民・マニフェストのトップに 「2010年の国会で改憲を発議」

戦後初めて首相の口から改憲発言が飛び出し、日本の侵略戦争を美化する靖国派などが暴走を始めました。憲法問題は参議院選挙で大きな争点です。自民は平成22年に改憲を発議するとし、公明も三年後をめどに加憲案を出すすと公約。改憲の狙いは、安倍首相自ら「アメリカと肩を並べて武力を行使する」ためといっています。改憲派に痛打を与える選挙にしていきましょう。

小森陽一先生 東大大学院教授・九条の会事務局長 が講演 中学生も多数参加

ルピアホールで6月16日、西多摩まちづくり研究会が学習会「ざっくばらんに教育の話 どうなっていくの？こどもの未来」を開催、約120名が参加しました。小森先生は事前に届けられた中学生からの手紙を紹介しながら憲法9条の大切さについて熱弁を振り、若いお父さんお母さんも熱心に聴講していました。

ノーモア・ヒロシマ
ノーモア・ナガサキ
核兵器のない世界を
平和憲法を守ろう
ともに歩こう

原水協などがとりくむ
2007年国民平和大行進が
行なわれます。

❖ 当地の日程とコース
7月19日(木) 檜原村
役場 9:00 出発→あきる

野市五日市出張所 11:30 着(昼食)12:20 出発→日の出町役場着 14:20。

7月20日(金) 9:15 日の出町役場出発→あきる野市役所 10:45 着・10:55 出発→(二宮神社お池で休憩)→福生公園 12:30 着。

みなさんもいっしょに歩きませんか。

お便り 住民税の通知が来た。昨年の 3.7 倍の 36 万円。昨年は年金が 100%になり、1 年間働いた結果とはいえ税源委譲と定率減税廃止の影響でもある。さらに国保税と介護保険料の通知が届いた。なんと 38 万円だ。定年後元の会社で働いているが、仕事で得る 4 ヶ月分近くがこの支払で消える。もちろんこのほかに所得税や固定資産税、そして消費税も払っている。汗の結晶が「温泉」や政党のテレビ CM、はてまた事務所費にも…と思うと選挙の投票は慎重に臨みたい。(M さん・二宮)



戦争を語りつぐ会から 体験記は8月末で締め切ります

募集していた体験記は8月末でいったん締め切りますので、お書きいただいている方はそれまでに事務局へお届けください。寄せられた手記はニュース掲載分も含めて小冊子にして発行します。

手記「戦争体験」(つづき)

腹を減らした疎開生

岩田基嗣 (日の出町)

昭和 19 年 8 月、御嶽弘沢(現、青梅市)に疎開し、青梅農林学校に転校した。

疎開先で、私たち家族を襲ったのは飢えであった。その頃の学校生活を振り返ってみよう。

朝食はお粥である。お粥といっても重湯に飯粒が浮いている程度のもので 4 杯までと決められていた。この 4 杯を飲んで御嶽駅から立川行きに乗る。水のようなお粥のため、小用が近くなるので必ず駅の便所で用を足してから電車に乗った。それでも日向和田のトンネルあたりでどうしても我慢ができず、宮ノ平駅で停車した隙にホームの隅へ飛んで行って用を足すのである。電車の発車までに間に合わなかったことが 2 度ほどあった。下車駅である東青梅までは、青梅駅をはさんでかなりの距離である。水腹

から空腹に変わった身体で、遅刻を恐れて青梅の街を駆け抜けて学校にたどり着いたときには、すでに時間は過ぎていた。

旧家や地主など比較的裕福な家庭から通学している者もいて、彼らの白米すなわちギンシャリの弁当を横目で見ながらの昼は、うらやましいとか食べたいとかいう気持ちを超越したあきらめの心境だったように思う。

戦争体験はさまざまであるが、年代によっても違

った。私の場合、敗戦が 14 才の時で食べたい盛りであった。飢えは誰にでも苦しいものであろうが育ち盛りの少年には殊更こたえた。

徴兵検査は第 2 乙種だったが...

小室 寛 (入野)

昭和 16 年 (1941 年) 私は赤坂の連隊に入隊した。当時は 20 才になると兵役の義務があった。私は徴兵検査の結果は第 2 乙種だった。その頃日本は中国での侵略戦争で兵員の補充のため、身体に重大な障害がない限り総て現役徴兵としていた。入隊して間もなく、初年兵のレントゲン検査が行われ、私は右肺に浸潤の影が発見され、3 日後に帰郷を命ぜられた。いま考えれば幸運と言えるのだろうが、町内会あげて盛大に見送られ入隊したのに、おめおめと帰されて来たなんて、お国の役に立てず恥さらしということなのだ。その年 12 月に日本は真珠湾を奇襲し、アメリカとの全面戦争に突入している。



私には二人の兄がいて、長兄は軍人を志望、中国の東北ハルピンに赴任していた。次兄は昭和 17 年も末に 2 度目の召集令が来た。

父は永い間病床についていたが、その晩は兄と別れの杯を交わし、「元気で行って来い」と言いながら父の表情は歪んでいた。兄が入隊した翌日の朝父の病状は悪化。年が明けて 18 年 2 月父は他界した。次兄との別れが大きなショックになったと思うほかない。

母も清瀬の結核療養所に入所させ、北区西ヶ原の実家は、私ひとり取り残されたように暮らしていたが、昭和 19 年 3 月の B29 に夜大空襲があり、焼夷弾の直撃で為す術もなく実家は焼け崩れてしまった。リュックサックに絵の具箱と父の遺骨、それに毛布 1 枚を詰め何とか脱出した。

家と共に生活の総ては一瞬に失われた。

東京大空襲の記憶

宮本 謙三
(小中野)
絵画「水道」



※ サポーター会は毎月第 2 土曜日午前 10 時 30 分から 12 時まで市役所ロビーで行っています。

A9 ニュースでは、皆様の投稿をお待ちしています。掲載する場合は紙面の関係で主旨を変えずに短くすることがあります。(事務局までお寄せください)